

生命の恵みへの招待 1993年 予防医化学研究所

野菜が教えてくれた神祕

「手の平にのるほど少量の土壌の中に、日本の総人口と同じ位の微生物が生きている」ということを皆さんお存じですか。抗生物質ペニシリンなどは、ほとんどこの土の中から造られています。こんな素晴らしい自然の土壌の中から新しい芽を出し、大きく成長する野菜は、こうした多くの微生物によって数限りない栄養素の恵みを受け、太陽の光のもとですべてを吸収して、私達人間の身体の健康管理に欠くことのできない葉緑素、鉄分、リン、ミネラルなど、あらゆるビタミンを豊富に提供してくれています。にもかかわらず自然をおざりにして、自然を忘れてしまった多くの人々が、自然から見離され、病に侵されているのです。億という微生物によって育まれ、成長した野菜には、こうした抗生物質にも優る、本物で精製された薬物が含まれているのです。だから野菜を食べなさい! 食べるのが嫌ならスープにして飲むとよい、ということをおすすめなのです。

ところで近年の農業は、この野菜すら化学合成物質の肥料をいれた水で、水耕栽培という農作物を造ることに成功しましたが、この野菜には、土の中に含まれている微生物によって、生成される素晴らしい自然の薬物は含まれず、只野菜というものです。それよりも恐ろしいことは、この野菜が吸収している合成物質は、化学肥料であることも歴然としています。いずれは、人体の機能に大きな影響を与えることは、明らかで要注意です。

さて、ここまで説明すれば、もっと知りたいというのが人間の心理でもあります。そこで多くの人々が最も恐れ、関心をもっている癌という症病、この癌にかかると絶対に助からない……と思っている人々がほとんどです。ところが、この癌にだけ好んでくっついていく物質があります。これがチロシンから変化したアザチロシンと、人体の3分の1をしめている硬蛋白質のコラーゲンです。この物質は癌細胞をみつけると、その周囲に集中して、いつのまにか癌細胞を包みこんでしまう不思議な力を持っていることがわかりました。しかし、コラーゲンやアザチロシンなど、多くの物質が人間の体内でくりひろげられるメカニズムについては、未だわかっていないが、身体の栄養のバランスをとることと、野菜スープによって薬物中毒や癌、あるいは機能障害等の治療法として、驚異的な効果が現われます。

どんな薬物よりも、自然の恵みに私達は感謝しなくてはなりません。このスープには、癌を予防する葉酸が多量に含まれています。

人体とは

人体を構成する体細胞とカルシウム、そして人体の3分の1を占めるコラーゲン(硬蛋白質)。この三者がバランスよく維持されておれば、決して諸病に怯えることはありません。ところがこのカルシウムが多くなったり、少な過ぎたりすると、突然症病に

とりつかれます。通常体細胞とカルシウムは同等数なのです。それでは、この両者を生涯如何にしてバランス良く保ち、育成していくのには何が必要なのか、そして、より強力な活性法とは何なのか、それは生命の誕生からヒモ解かねばなりません。

生体、生理、病理、臨床学と多くの角度から解明していくうちに人体を司さざるいちばん大事なもの、それは脳です。この脳を支えている物質は何なのか、脳細胞の分析から始めるほかありません。そして、多くの動物実験から割り出されたものが、「燐」(リン)という物質です。

リンなくして生体は成り立たない、そのためには、リンをより多く摂取すればと考え、動物テストを行ないましたが、これは失敗に終わりました。リンとカルシウムは、すばやく結合する性質をもっていることから、結合させて生体に注入しましたが、体細胞その他、とくに変化を認めることは不可能でした。ここで気付いたのが、乳産児に1日3時間の日光浴をさせると、ビタミンDが補給できるという実証例でした。実験動物達にビタミンDを入れてやると、毛並みから皮膚、動作などに大きな変化が現われました。そして、その生体の動きは異常なまでに繁殖、増殖をくり返すようになりました。

ところが困ったことに、血液がうまくついてきません。そこで、葉酸と鉄分、ミネラルと石灰を混合し、動物の生体の中で、体細胞より成長の早い癌細胞と競争させました。すると、癌細胞は後退し、体細胞の成長が早いばかりか、体細胞は癌細胞を包み込む形で、いつの間にか体細胞そのものになっていました。この実験を通して、動物の内蔵から脳に至るまで、数百回もの移植を試みました。その結果、何回繰り返しても癌は見事に消えていくと同時に、体細胞とコラーゲンの働きは、只々驚く勢いで成長してくれることかわかりました。

何故でしょうか。カルシウムをいくら体内に送り込んでも、リンがなければ害になってしまふ身にならない、ということです。それではリンを先に体内に蓄積させておけば、体内で待っているリンがカルシウムと結合して、無駄なく身体のすべてに送り込むと同時に、ビタミンDによって吸収をくまなく、良くしてくれるからです。野菜スープは、これら諸条件をすべて満たしてくれます。人体の育成と維持、老化を防ぐ、症病のつけ入るすき間を与えないという、三つの条件がそなわっているからです。

そして、玄米茶によって血液の流通を良くし、インシュリンと利尿の効果を倍加することが、可能になりました。これによって、年令を問わず、健康な脳と、身体のすべてを活性化し、若返りの秘薬ともいいうべきものが完成したのです。

蘇生と効果

野菜スープの効きめは、人体で一番硬い蛋白質であるコラーゲンの増強を促進させ、年令に関係なく、成長時の子供と同じような身体をつくる原動力になると共に、体内に入った野菜スープが化学変化を起し、30種以上の抗生物質になり、そのなかでもアミチロシンやアザチロシンのような癌細胞にだけ飛びつく、特殊な物質が増えることで、癌は3日間で制圧し、人体を構成している体細胞を変えることができます。と同時にこの体細胞が、癌の免疫をもっているがために、二度と癌にかかることがあります。

りません。

これらの条件を揃えることで末期癌の患者さんでも、100%生態がよみがえっています。酸素吸入をしている患者さんでも、45分間隔で野菜スープ200ccと、玄米茶200ccを交互にカテーテルを使用し、胃、または腸に注入してやると、体細胞が一気に増加してくるため、生体そのものが蘇生し、元気を取り戻すことができます。この場合、患者さんに投与する野菜スープと玄米茶は、一日量0.6リットル程度でよい。翌日からは、患者さん自身が一人で飲むことができるようになります。

ただし注意をおきますが、抗癌剤、その他薬物の投与はしないでください。末期癌患者さん一万人以上、すべての人々が生存し、働いています。実行した皆さん99%です。また、玄米茶の効能は、利尿作用の促進剤と併せ、糖尿病患者さんの糖の分解と、インシュリンの働きを助長させてくれる最高の飲物です。同時に腹膜に溜まった水を抜くのにも、どんな利尿剤よりも速効してくれる特効薬にもなり、血液並びに血管内の浄化作用は、驚異的威力をもっています。それが事実、心臓病患者さんに、野菜スープと玄米茶を一日量0.6リットル以上20日間、投与するとすべて正常になります。

野菜スープと玄米茶

野菜スープの目的は、体細胞の増殖強化を促すと共に、白血球、血小板の増強と、T細胞の働きを3倍の勢いで増やし、強力な人体をつくることがあります。

また、玄米茶は、糖尿病患者のインシュリン効果を助長することを目的としますが、利尿作用が極めて良く、腹水のたまっている人や、癌症状など重い症病のある方が、野菜スープと併用することで、治療には最高の条件をつくってくれます。

世界の大学、医学者から文献、データ等教えてほしい、とその要望が増えてきています。断っておきますが、今迄にデータを出さなかったことについて、その理由を説明をおきます。かつて私は、ある医師に正直にそのデータを揃えて渡したところ、その数ヶ月後にその医師が製薬会社に持ち込み、新薬を発表して医学博士号をとったケースもあります。こうして、今迄に教えたデータは、開業医から大学病院の医師に至るまで、ほとんど労せずして博士号のエサにされていることから、固く断ってきました。しかし、今は多くの患者さん達の生命の方が大切だから、そんなことを言っているときではなく、ここにあえて公表することにしました。

同時に、各大学や、医療関係者達にこの書をベースにして、より素晴らしい副作用のないものを、研究と努力によって開発されることを願うとともに、一人でも多くの人々が安心して治療が受けられるよう、人間として病気の予防と医療の確立を望むものです。

恐るべき薬の副作用

今日、日本で販売されている医薬品は31,000種にも及び、その薬品のうち市販されているものが16,000種にのぼるといわれています。そして、この薬品のうち最も恐るべきことは24,000~25,000種は、副作用が大であることが判明しています。最近厚生省がやっと薬による副作用の報告を増やそうと、研究班を設けて件等を始めたよう

ですが、効果はあまり上がってないようです。

身近かなもので、副作用症状が確認されているものを紹介します。

- 1) 糖尿病の薬を飲んでいる人に鎮静剤を投与すると、低血糖をおこし、発作強直、心不全をおこすことがある。
- 2) 風薬を飲んでいる人に(とくに抗生物質を含む)胃薬を投与すると、薬の中には含まれるマグネシウム、アルミニウムなど、テドラサイクリング系の薬は化学変化をおこし、薬効が無くなると同時に副作用をおこし易い。
- 3) 眼科疾患の患者さんが眼剤、精神薬を飲むと目の進行が早くなり悪化する。
- 4) 高血圧の薬を飲んでいる人に眼剤、安定剤を投与すると薬が効きすぎて、低血圧、めまい、心不全などがおこる。
- 5) その他、高血圧、心臓病の薬(とくに強心剤)を飲んでいる人は、牛乳、ミルク製品、カルシウム剤を飲んではいけません。薬の中には世界で認められていない「ユビデカレノン」(薬品名)という薬が入っています。この「ユビデカレノン」は体内に入ると素早くカルシウムと結合して、ジキタリス中毒をおこし、疾病を悪化させると同時に、予備群の合併症を誘発し再起不能になります。脳の機能低下(呆を早める)を促す最良の試験薬でもあります。
- 6) 不整脈を抑える薬プロノンは副作用が多く、この薬を飲んで多数の死者が出ています。現在日本では12万人が投与されています。